

目標

もともとは6割取れば合格点に達と言われていたが、共通テストのリサーチ結果を見るとB判定までの差が15点もあったので、自分の得意科目である世界史でこの差を詰めようと思い目標を少し上げて7割にしました。

目標

二次試験で5割から6割得点できれば合格最低点を超えることが多いので、世界史で半分取れば問題はありません。しかし世界史に頼って得点を稼ぐことは極力避けたいところです。



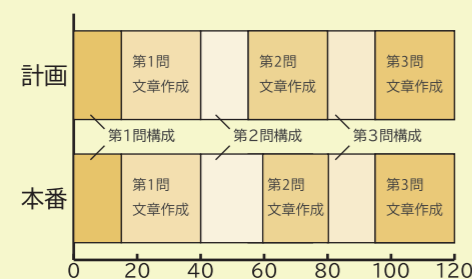
共通テスト対策はこちらから

得意な人

勉強法

最初は教科書や資料集、用語集を見ながら正確な知識を使って構成メモを書き、その後時間をかけて文章にしていました。取り組んだ過去問は必ず世界史の先生に解説や添削してもらいました。自分の書いた答案を添削してもらい、因果関係、前後関係で間違っているところや、誤字脱字に気付くことはとても重要だと思います。3つある大問のうち、中世ヨーロッパから出題され抽象的な部分が問われる第1問の過去問を共通テスト後にまず集中して取り組みました。何十年分も解くと自然と傾向がつかめてきて、世界史の流れがつながりました。抽象的で分からないところは先生に何度も聞き、文章で表現できるようにしました。次に、教科書に載っている知識だけで答案を作成できる第3問に集中的に取り組みました。最後に一番出題範囲の振れ幅が大きい第2問に取り組み、世界史の知識を総復習しました。1月から20年分の過去問を解いたためすべての大問の解答を作成する時間がとれず、一度解いたものと似た問題は構成メモだけで済ませていました。また、私大の入試に向けて、一橋入試では多分出ないであろう範囲も一応復習していました。

時間配分



時間配分は、120分を3つに分けてそれぞれの大問を40分ずつかけて解くと決めていました。その40分をさらに構成メモ15分と文章化25分に分けていました。実際の入試では、第1問と第3問は過去問演習と同じ時間配分で解答を作成できましたが、第2問のアフリカ史では400字を書き切ることのできる構成メモを作れず、若干の想像とアフリカ史の絞りだした知識を問題用紙に羅列していると構成メモの時間が計画よりも長引いてしまいました。しかし、少ないメモを引き延ばして文章化することは過去問を解くときに慣れていたので、文章化は時間内に終わることができました。

反省点

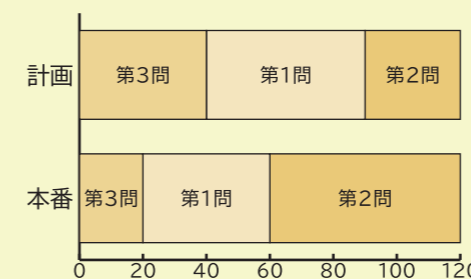
論述の勉強法は比較的うまくいきました。過去問を解くときは内容も大事ですが、全く同じ内容の問題は出ないので、時間配分の練習として活用することが良いと思います。過去問にとらわれすぎると今年の第2問のように何十年も出ていない分野に対応しづらいため、過去問は過去問として出題傾向を把握する程度に思っておいたほうが良いかもしれません。私大の細かい知識を問う問題への対策が、意外なところで一橋の世界史対策になったということも実感しました。

苦手な人

勉強法

世界史において、基本は通史の理解です。高校の授業をしっかりと聞いて通史を理解し、定期試験対策を通じて人名など細かな知識を暗記していきましょう。高3の夏ごろに通史が終わる場合は、そこから過去問と通史の復習に取り掛かると良いと思います。市販の過去問には20年分収録されていますので、直近5年分は共通テスト後に温存しておいてそれ以前の15年分をこの時期から取り組んでいきましょう。最初は論述を書くことに慣れていないと思うので、問題文を読み、答案に記すべき要素を箇条書きのような形でまとめるだけで十分です。そして模範解答と自らが記した要素と照らし合わせ、過不足がないかを確認しましょう。この際、模範解答に書かれていた細かな知識は今後の問題演習などで利用できる場合があるので、ノートにまとめておくと良いです。共通テスト直前期の12月ごろからは論述対策を共通テストのために必要な事項の暗記へ切り替え、共通テスト後からは再び二次試験に向けて論述対策を再開します。このときに温存しておいた直近5年分の過去問に取り組ましましょう。実際に時間を計測し、箇条書きではなく400字の論述を書き上げる練習をしましょう。

時間配分



第3問→第1問→第2問の順に解くのがおすすめです。第3問は近現代アジアから出題され、易しいため他の受験生も得点してくるので、完璧に近い答案を書く必要があります。時間はしっかりと取り、丁寧に取り組みましょう。続いて第1問は中世から近代の欧州から出題されます。出題分野が例年似ているので、難しくとも対策はしやすく他の受験生も得点してきます。解答方針を入念に検討するために第3問よりは長く時間を取りましょう。最後の第2問は出題範囲が広く対策もしづらく、加えて問題の難易度も高いです。他の受験生も得点しづらい大問ですので、残された時間でとにかくわかることを答案に綴りましょう。

反省点

想定より早く第1問と第3問の解答が終わり、第2問に十分な時間を割くことができたのですが2023年度の第2問は難しい問題であったため苦戦しました。残された時間を有効に使うためにも、より多くの知識を蓄えておきましょう。また一橋の世界史は出題分野が限定されており、一橋の対策だけでは総合的に出題されることが多い他大学の入試に対応しづらくなります。そのことを念頭に置き、より多くの合格をつかむためにも英語や数学などを得点源としたいところです。